

科目名	人間学概論Ⅲ（政治と人間）	副題	
担当者	藤森 智子・國見 真理子（オムニバス・一部共同）		
開講期	前期	単位数	2単位
		配当年次	1・2年次
授業の概要	社会は個々の人間から形成され、社会科学の一つである政治学は広く人間の営みを扱うといえよう。本来、政治とは利害の調整の過程であるといわれる。本講座は、国家や社会の統治や政策が人間形成に与える影響の検討を主な目的とする。 初回講義は、藤森と國見が共同で、政治の観点を中心に、国家と人間に関わる関係を概観する。藤森担当の講義では、マクロな視点では国家の統治・政策を取り上げ検討する。ミクロな視点では個々の政策と人間形成を取り上げ、ケース・スタディを行う。國見担当の講義では、国家と人間との関わりを経済、法律面から取り上げ、ケース・スタディを行う。		
授業のねらい・到達目標	1. 国家に関わる社会科学的アプローチを理解する。 2. 国家と人間形成の諸相を明らかにする。 3. 国家に関わる多様な問題分析の方法を確立する。		
1	ガイダンス/研究課題の設定(藤森・國見)		
2	近代社会と人間(藤森)		
3	国家権力と人間(藤森)		
4	民主主義と人間(藤森)		
5	国家とナショナリズム(藤森)		
6	言語政策と人間①：近代日本を例に(藤森)		
7	言語政策と人間②：日本の植民地を例に(藤森)		
8	受講生の発表と討論(藤森)		
9	統治と人間（國見）		
10	国家権力を巡る諸問題①：行政国家現象（國見）		
11	国家権力を巡る諸問題②：財政問題を例に（國見）		
12	国家権力を巡る諸問題③：裁判員制度を例に（國見）		
13	事例検討①：統治を巡る判例検討（國見）		
14	事例検討②：人間を巡る判例検討（國見）		
15	総括（國見）		
期末			
授業に関する連絡	「でんでんばん」を通じて履修者に適宜連絡する。		
評価方法及び評価基準	授業内の発表・討論(50%)及び期末課題(50%)で評価する。		
事前・事後学習の内容	授業計画で授業内容を確認し、該当部分の下調べをしてから授業に出席してほしい。授業後は、十分な復習を行い、知識の定着をはかるよう努めてほしい。		
履修上の注意	特になし。		
テキスト	特になし。		
参考文献	佐藤幸治「日本国憲法論」（成文堂） 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）		